

## M25b 太陽風パラメータの長期変動について

亘 慎一, 田 光江, 久保勇樹 (情報通信研究機構)

サイクル24は最近の数サイクルの中でもっとも活動の低いサイクルとなっており、コロナ質量放出(CME)による地磁気嵐の発生も少なくなっている。そこで、太陽風パラメータ(速度、温度、密度、磁場強度)の長期データを用いて統計的な解析を行った。人工衛星による太陽風の直接観測が行われるようになって、50年以上が経過しており、特に1995年以降は、WIND衛星やACE(Advanced Composition Explorer)衛星の観測により、98パーセントを超える太陽風の観測率となっている。2015年以降は、DSCOVR(Deep Space Climate Observatory)衛星により連続的な太陽風の観測が引き続き行われることになっている。そこでサイクル23とサイクル24の立ち上がりの期間について比較してみると、太陽風の速度、温度、密度、磁場強度のいずれもサイクル24において小さくなっていることがわかる。CME、コロナホールなどその太陽での起源により、地球近傍で観測される太陽風パラメータは、異なる特徴を持っていることが知られている。太陽風の領域を識別するアルゴリズムを用いて、太陽風のそれぞれの領域についての比較に関する発表を行う。